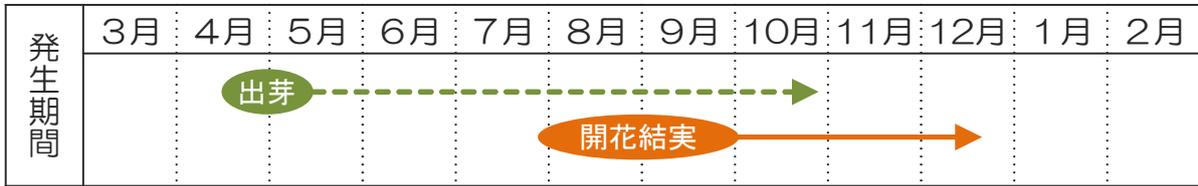


# イヌホオズキ類

ナス科，一年生

やや  
難

帰化のものを含めて数種類が知られおり，県内の大豆ほ場ではイヌホオズキを中心に広く発生している。大豆の収穫時期において，茎葉や果実の水分が高いので汚粒の原因となる。



形態的特徴	分枝が斜めに多く発生し，横方向に大型化する。葉は互生し，成葉はほぼ無毛で，縁がやや波打つ。節からも発根する。花は1cm程度でトマトに似る。果実は7～10mm程度の球形で，熟すと紺～黒色になる。
生態的特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出芽期間は5月～10月頃と長い。(低温では出芽しない)</li> <li>・1つの果実で100粒程度と多くの種子を生産する。</li> <li>・種子は湛水条件でも3年以上生存するので，水稻作後でも発生する。</li> </ul>
化学的防除法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌処理剤:フルミオWDG等の効果が高い。</li> <li>・大豆バサグラン液剤(全面): 処理後低日照時を除いて3葉までで枯死，6葉までで一定の生育抑制効果がある。</li> <li>・アタックショット乳剤: 効果は極めて高い。雑草全体に薬液が付着すれば15cm程度でもおおむね枯死する。</li> <li>・畦間・株間処理: 多発ほ場では，非選択性除草剤やリニュロンを含むロロックス水和剤などが有効。</li> </ul> <p>* 除草効果は「イヌホオズキ」について記載</p>
耕種的防除法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大豆作付前不耕起処理により，当年産の種子を早期に出芽させる(5月下旬以降に多く出芽する)。</li> <li>・大豆播種前湛水処理により，種子を齊一に出芽させる。</li> <li>・晩播(7月上旬)により，出芽期間を短くする。</li> </ul>